今日のトピック 2014年の振り返り(世界の株式市場)

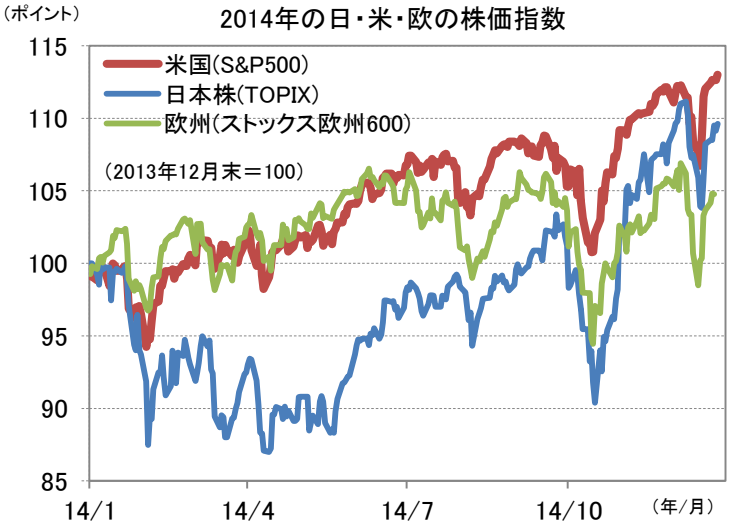
米国株式は史上最高値を更新

ポイント1 史上最高値更新の米国株式

日本株式も大きく回復

■米国株式市場は、波乱含みではあったものの総じて堅調に推移し、史上最高値を更新する展開となりました。日本は年前半、地政学リスクに円高進展や消費税増税の影響が加わったことで欧米に比べ大幅に出遅れました。年央は年金改革等に対する期待から戻り基調となり、年後半は10月末の日銀の追加金融緩和以降、大きく値を戻しました。

■欧州はグローバル景気の回復を背景に、年央まで堅調に推移しましたが、その後は、ロシアへの追加制裁がユーロ圏経済へのマイナス要因となるなど値動きが重くなりました。ECBによる緩和期待が株価を支えました。



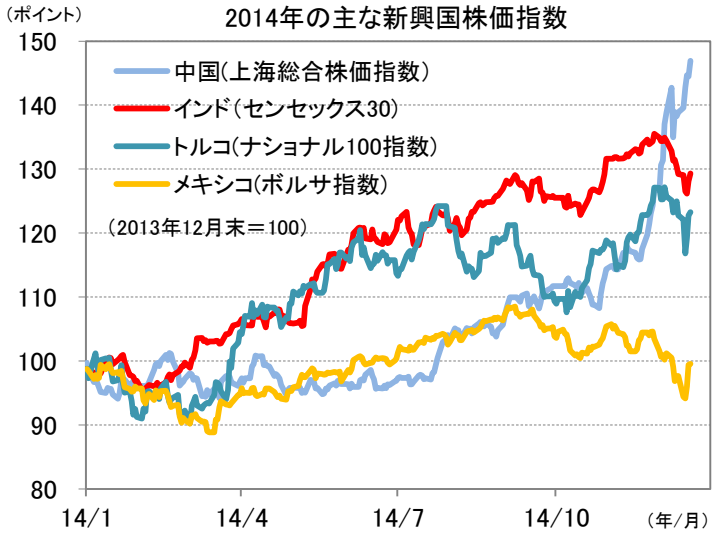
（注）データ期間は2014年1月2日～2014年12月26日。欧州(ストックス欧州600)は12月24日まで。
（出所）Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 新興国株式はまちまち

中国株式が大きく値を戻す

■新興国株式市場はまちまちの展開となりました。米国のQE縮小が1月から始まり、新興国からの資金流出懸念などから軟調な展開となりました。ただ、こうした動きは3月頃までで、米経済を中心に景気が底堅く推移する中で、新興国株式も次第に堅調さを取り戻しました。

■中国では年央以降規制緩和を小出しに打ち出し、11月に政策金利を引き下げる金融緩和を実施しました。これを受け、出遅れていた中国株式は大きく値を戻す展開となりました。



（注）データ期間は2014年1月2日～2014年12月26日。
（出所）Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 堅調さ持続へ

■世界経済は米国を中心に堅調さを維持すると見られます。一方、原油価格の下落は物価を押し下げるため、日欧などで金融緩和強化が必要となる見通しです。また、原油価格の下落はコスト低下などから企業の利益率にプラスです。

■今後は米国の需要増に加え、企業の利益率向上が期待できそうです。2015年は、過剰流動性と低金利継続という環境下で、株式投資の魅力が拡大すると思われます。

ここもチェック!

2014年12月24日 2015年の米国経済の見通し
2014年12月19日 2015年の中国経済の見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨･勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ･分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性･完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス･統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。